

# 結 果 の 概 要

## 1 出生数は減少

出生数は84万835人で、前年の86万5239人より2万4404人減少し、明治32年の人口動態調査開始以来最少となった。出生率(人口千対)は6.8で前年の7.0より低下し、合計特殊出生率は1.33で前年の1.36より低下した。(第1表)

母の年齢(5歳階級)別にみると、出生数は45～49歳の階級では前年より増加したが、その他の階級では減少した。合計特殊出生率の内訳は39歳以下の各階級で前年より低下したが、40歳以上の各階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。(第4表(1)、第5表(1))

出生順位別にみると、出生数及び合計特殊出生率ともに、全ての出生順位で前年より減少・低下した(第4表(2)、第5表(2))。

母の年齢(5歳階級)別と出生順位別を併せてみると、合計特殊出生率は15～29歳の各階級ではいずれの出生順位についても前年より低下した(第5表(3))。

## 2 死亡数は減少

死亡数は137万2755人で、前年の138万1093人より8338人減少し、11年ぶりの減少となった。死亡率(人口千対)は11.1で前年の11.2より低下した。(第1表)

死因別にみると、悪性新生物<腫瘍>の死亡数は37万8385人(死亡総数に占める割合は27.6%)、死亡率(人口10万対)は306.6であり、前年と同様死因順位の第1位となった。なお、第2位は心疾患(同15.0%、166.6)、第3位は老衰(同9.6%、107.3)となった。

また、対前年増減をみると、肺炎は7万8450人で、前年より1万7068人と大きく減少している。

なお、新型コロナウイルス感染症は、3466人となっている。(第6表)

年齢調整死亡率(人口千対)は男13.3、女7.2で、男女とも前年の男13.5、女7.5より低下した(第1表)。

## 3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△53万1920人で、前年の△51万5854人より1万6066人減少している。

また、自然増減率(人口千対)は△4.3で前年の△4.2より低下し、実数・率ともに14年連続で減少・低下した。(第1表、第2表-1、第2表-2)

## 4 死産数は減少

死産数は1万7278胎で、前年の1万9454胎より2176胎減少し、死産率(出産(出生+死産)千対)は20.1で、前年の22.0より低下した(第1表)。

## 5 婚姻件数は減少

婚姻件数は52万5507組で、前年の59万9007組より7万3500組減少し、婚姻率(人口千対)は4.3で前年の4.8より低下した(第1表)。

## 6 離婚件数は減少

離婚件数は19万3253組で、前年の20万8496組より1万5243組減少し、離婚率(人口千対)は1.57で前年の1.69より低下した(第1表)。